

科目名	公衆衛生と保健統計						
科目名(英)	Public Health and Statistics						
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	小出昭太郎・竹原直道		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて講師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	公衆衛生の動向とあゆみ、人口動態といった、公衆衛生学の基本や、国民衛生の動向といった基礎的知識を学ぶ科目として設定。さらに、看護専門職者として地域社会における健康保持や増進のための組織的な保健活動の概要や、環境保健活動などの概要を学ぶ。(DP2・3)						
授業形態	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				公衆衛生の概念や活動の歴史、活動対象について理解することができる	
	○	○				集団の健康をとらえる手法を理解することができる	
	○	○				社会環境の変化から生じる健康課題を理解できる	
テキスト・教材 参考図書	神馬 征峰ら：『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生』, 医学書院 『国民衛生の動向』, 一般財団法人厚生労働統計協会						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	公衆衛生とは				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	公衆衛生活動の対象理解				指定課題への取り組み	
	3	公衆衛生のしくみ				指定課題への取り組み	
	4	公衆衛生のものさし～集団の健康をとらえるための手法				指定課題への取り組み	
	5	公衆衛生のものさし～原因の分析、対策の計画・実施				指定課題への取り組み	
	6	感染症とその予防対策				指定課題への取り組み	
	7	食品保健				指定課題への取り組み	
	8	生活環境保全				指定課題への取り組み	
	9	環境と健康				指定課題への取り組み	
	10	健康危機管理・災害保健				指定課題への取り組み	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	暮らしの中の保健活動						
科目名(英)	Social Health Care Activity						
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	尾形由起子		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院等にて保健師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	地域社会における健康保持や増進のための組織的な保健活動の概要や、産業保健活動、環境保健活動などの概要を学び、多様化する対象・場における看護の在り方について学ぶ。(DP3)						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				保健活動の基盤について理解できる。	
	○	○				健康増進や疾病の予防のための保健活動の実際が理解できる。	
	○	○				保健活動における看護師の役割が理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『地域看護論』, 医学書院 『国民衛生の動向』, 一般財団法人厚生労働統計協会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	公衆衛生に関する保健活動の基盤			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	地域保健活動(ヘルスサービスの構造・健康教育・ヘルスプロモーション)			指定課題への取り組み		
	3	成人保健			指定課題への取り組み		
	4	母子保健			指定課題への取り組み		
	5	高齢者保健			指定課題への取り組み		
	6	精神保健			指定課題への取り組み		
	7	障害者保健・難病保健			指定課題への取り組み		
	8	学校保健・職場と健康			指定課題への取り組み		
	9	健康危機管理・災害保健			指定課題への取り組み		
	10	これからの公衆衛生と看護			指定課題への取り組み		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	暮らしを支えるチーム						
科目名(英)	The team which supports a living Health Support						
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	尾形 由起子		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院等にて保健師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	生活者をとりまく保健医療福祉サービスにおける専門職の役割と連携について学ぶ。(DP3・4・5)						
授業形態	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				保健医療福祉チームにおける専門職種を述べるができる。	
	○	○				対象や場面毎に保健医療福祉チームにおける専門職の役割を理解することができる。	
	○	○				人々の暮らしを支えるために、専門職種間の連携が重要であることが理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	宇都宮ひろこ『これからの退院支援・退院調整』 講師配布資料						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	看護職について			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	高齢者を支えるチーム～介護福祉士・管理栄養士～			指定課題への取り組み		
	3	高齢者を支えるチーム～社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー・生活相談員～			指定課題への取り組み		
	4	高齢者を支えるチーム～リハビリ(OT・PT・ST)、歯科衛生士・歯科装具士～			指定課題への取り組み		
	5	母子保健・子育てを支えるチーム～助産師・保健師～			指定課題への取り組み		
	6	母子保健・子育てを支えるチーム～保育士・養護教諭・臨床心理士～			指定課題への取り組み		
	7	健康障害により生活の場が変化した者を支えるチーム～救急救命士・薬剤師～			指定課題への取り組み		
	8	健康障害により生活の場が変化した者を支えるチーム～放射線技師・医療事務・臨床工学技士～			指定課題への取り組み		
	9	健康障害により生活の場が変化した者を支えるチーム～臨床検査技師・手話通訳士～			指定課題への取り組み		
	10	暮らしを支えるチームのまとめ			指定課題への取り組み		
	11						
	12						
	13						
14							
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護研究の基礎						
科目名(英)	Basics of Nursing Research						
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	既存の知識や理論を活用するプロセスを学び看護実践につなげるために、看護研究の重要性を理解し、科学的思考や態度を身につける。看護研究の基礎知識とともに、看護を広く深く追求し続ける研究的態度(看護現象を客観的・科学的・論理的に捉えようとする態度)を学ぶ。(DP5・6)						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				研究に対する基本的倫理の考え方や研究に対する倫理的配慮の必要性を説明できる。	
	○	○				看護研究のプロセスや研究に関する用語を説明できる。	
	○	○				看護研究に必要なデータ収集・分析方法について説明ができる。	
	○	○				研究方法の種類・特徴について説明ができる。(実験研究、調査研究、文献研究、事例研究など)	
	○	○				文献の検索方法、文献の読み方、文献整理について説明ができる。	
	○	○				看護研究のテーマと研究計画書について説明できる。	
	○	○				論文の書き方、引用文献・参考文献等の研究報告の書き方の基本が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	山口瑞穂子／石川ふみよ:『ひとりで学べる看護研究』, 照林社 (その他 適宜 資料配布 参考図書の紹介)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護実践における研究の意味、必要な基礎知識、研究方法の種類・研究のプロセス				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	看護研究に必要なデータ収集・分析方法(データ収集の技法など)				指定課題への取り組み	
	3	看護研究に必要なデータ収集・分析方法(t検定、χ ² 検定など)				指定課題への取り組み	
	4	看護研究に必要なデータ収集・分析方法(活用方法の実際など)				指定課題への取り組み	
	5	看護研究に必要なデータ収集・分析方法(活用方法の実際など)				指定課題への取り組み	
	6	研究における文献の活用(検索方法、読み方、文献整理)				指定課題への取り組み	
	7	研究方法の種類・特徴(実験研究・調査研究の基礎知識)				指定課題への取り組み	
	8	研究方法の種類・特徴(文献研究・事例研究の基礎知識)				指定課題への取り組み	
	9	研究計画書作成の方法と実践				指定課題への取り組み	
	10	文献検索と文献整理の方法と実践・研究報告の書き方の基本				指定課題への取り組み	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	筆記試験	◎	◎				
	授業態度			◎			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	地域・在宅看護技術						
科目名(英)	Technique of Nursing for Community/Home Health Care						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	演習など実践を意識した授業の中で、地域・在宅における看護援助の方法や実践プロセスを身につけるための基礎知識を学ぶ。(DP2・3・4)						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		事例を通して在宅療養者の看護過程を展開できる	
	○	○	○	○		様々な事例から、療養者と家族や、その環境と状況に応じた必要な看護を説明できる	
	○	○	○	○		様々な事例における訪問看護の実演の中で、看護計画の実施ができる	
	○	○	○	○		演習など実践を通して、看護援助の方法や実践プロセスをリフレクションすることができる	
テキスト・教材 参考図書	『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤』, 医学書院 『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護論の実践』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) グループ学習			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 対象理解・関連図			指定課題への取り組み		
	3	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) アセスメント			指定課題への取り組み		
	4	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 看護課題の明確化			指定課題への取り組み		
	5	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 強み・連携を活かした看護計画			指定課題への取り組み		
	6	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 訪問時のマナー 基礎知識			指定課題への取り組み		
	7	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 訪問看護計画・行動計画			指定課題への取り組み		
	8	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 訪問看護 実演			指定課題への取り組み		
	9	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 自宅での生活援助方法の実演			指定課題への取り組み		
	10	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 自宅での生活援助のリフレクション			指定課題への取り組み		
	11	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 医療ケア方法の実演			指定課題への取り組み		
	12	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 医療ケア方法のリフレクション			指定課題への取り組み		
	13	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) ケアマネジメント			指定課題への取り組み		
	14	様々な事例の地域・在宅看護過程(演習) 学びの共有・リフレクション			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・実技試験80%以上を合格とし、これを満たさなければ筆記試験に臨むことができない。 ・筆記試験60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
	授業態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護技術						
科目名(英)	Technique of Adult Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松ノ木 幸恵		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	健康障害を持つ成人に関する様々な情報を整理し、情報の解釈・分析・統合により看護問題を導き、成人期の対象と看護の理解を深める。その中では特に、生活習慣がもたらす影響を理解できるよう、リスクファクターの視点、患者教育に着眼し、看護展開を行う。 また、成人看護学で活用される技術の演習を実施することにより、看護実践の基礎能力を身につける。(DP1・2・3・4)						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				成人看護学における看護過程を展開し、対象の抱える問題について説明することができる。	
	○	○	○	○		患者教育の必要性・方法を理解し、個性のある実践を行うことができる。	
	○	○	○	○		成人の持つ力を支える援助を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	安酸 史子ら:『ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント』, 株式会社メディカ出版 安酸 史子ら:『ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケア再獲得』, 株式会社メディカ出版 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(NANDA-1 2021-2023) 成人看護学の講義資料、その他成人看護や病に関する資料、配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	慢性期の健康障害を持つ人の看護過程の展開:糖尿病 GW				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	慢性期の健康障害を持つ人の看護過程の展開:糖尿病 GW				指定課題への取り組み	
	3	慢性期の健康障害を持つ人の看護過程の展開:糖尿病 GW				指定課題への取り組み	
	4	慢性期の健康障害を持つ人の看護過程の展開:糖尿病 GW				指定課題への取り組み	
	5	慢性期の健康障害を持つ人の看護過程の展開:糖尿病 GW				指定課題への取り組み	
	6	紙上事例患者の患者教育指導案作成				指定課題への取り組み	
	7	紙上事例患者の患者教育指導案作成				指定課題への取り組み	
	8	紙上事例患者の患者教育指導案 実践				指定課題への取り組み	
	9	紙上事例患者の患者教育指導案 実践のリフレクション				指定課題への取り組み	
	10	インスリン注射、自己血糖測定の演習				指定課題への取り組み	
	11	インスリン注射、自己血糖測定の演習のリフレクション				指定課題への取り組み	
	12	救急時の応援要請・一次救命処置・止血法・AED 演習				指定課題への取り組み	
	13	救急時の応援要請・一次救命処置・止血法・AED 演習のリフレクション				指定課題への取り組み	
	14	心電図装着 演習・リフレクション				指定課題への取り組み	
15	成人看護技術 まとめ				指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
授業態度				◎		30%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学援助論						
科目名(英)	Overview of Assistance and Support Method for Elderly						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	河村 佳緒理		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	高齢者は、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴から「生活機能」の障害が生じやすい。生活機能の障害は、高齢者の「生活行動」に影響してくる。高齢者ゆえの生活行動の特徴や、それに対する援助(アセスメント看護)について学ぶ。また、高齢者ゆえの身体的特徴(加齢変化)から健康を逸脱することも多いため、その特徴的な症状・疾病・障害などをもつ高齢者の回復を支える看護を学ぶ。(DP1・2・3)						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高齢者の健康状態(加齢に伴う機能の変化)と生活の変化について説明できる。	
	○	○				さまざまな健康状態に応じた高齢者の看護について説明できる。	
	○	○				高齢者に特有な疾患・障害と看護について説明できる。	
	○	○				生活する高齢者の健康を支える看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	北川 公子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高齢者の生活(食事、摂食嚥下障害、低栄養)を支える看護				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み(1時間)	
	2	高齢者の生活(排泄、尿失禁、便秘・下痢)を支える看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	3	高齢者の生活(清潔、高齢者に多い皮膚障害)を支える看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	4	高齢者の生活(活動、転倒の防止と影響、歩行・移動)を支える看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	5	高齢者の生活(睡眠、休息、睡眠障害)を支える看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	6	高齢者の生活(性、セクシュアリティ)を支える看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	7	高齢者に特有な廃用症候群の看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	8	高齢者に特有な脱水症の看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	9	高齢者に特有なコミュニケーションと看護ケア(視覚障害・聴覚障害・言語障害)				指定課題への取り組み(1時間)	
	10	高齢者に特有な骨粗鬆症・骨折の看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	11	高齢者に特有なうつ病の看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	12	高齢者に特有なせん妄の看護				指定課題への取り組み(1時間)	
	13	高齢者に特有な認知症の看護(認知症とは、認知症の種類・症状・治療・予防・評価方法)				指定課題への取り組み(1時間)	
	14	高齢者に特有な認知症の看護(アセスメント・ケア/急性期病床での援助)				指定課題への取り組み(1時間)	
	15	認知症高齢者への効果的なアプローチ				指定課題への取り組み(1時間)	
評価方法	・60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	筆記試験	◎	◎			評価割合	
	授業態度				◎	80%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護技術						
科目名(英)	Technique of Gerontological Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	河村 佳緒理		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	演習など実践を意識した授業の中で看護援助の方法や実践プロセス、高齢者に対する望ましい態度を身につけることを目的とする。紙上事例による事例を通して、生活機能障害にある高齢者の護過程を展開する方法(※とくに生活機能の観点から、目標志向型思考をふまえて教授する)を学ぶ。実際に事例の看護を考える中で関連する施設や施策を調べ学習を行い、高齢社会の現状・課題・取り組みについて学ぶ。(DP1・2・3)						
授業形態	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	病態・心身機能・構造・その人らしさや個人因子・環境因子について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				その人の望む生活や活動・参加について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				その人の望む生活を目指したアセスメント、強みを活かした看護の方法について説明できる。	
	○	○	○	○		その人の望む生活を目指し、強みを活かした看護の方法を実践できる。	
	○	○		○		関連する施設を理解(見学)することで、高齢社会の現状・課題・取り組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	北川 公子:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』,医学書院 老年看護学Ⅰの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高齢者の摂食嚥下障害(嚥下機能訓練の方法)を支える看護の実践				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み(1時間)	
	2	高齢者の行・移動(杖歩行、移乗方法)を支える看護の実践				指定課題への取り組み(1時間)	
	3	高齢者の清潔(手浴・足浴の工夫、フットケアの方法)を支える看護の実践				指定課題への取り組み(1時間)	
	4	事例疾患(認知症)の病態や心身機能・構造について、情報をアセスメント(分析・判断)				指定課題への取り組み(1時間)	
	5	その人らしさや個人因子・環境因子・望む生活や活動・参加について、情報をアセスメント(分析・判断)				指定課題への取り組み(1時間)	
	6	その人の望む生活を目指した健康課題(看護問題)				指定課題への取り組み(1時間)	
	7	強みを活かした看護の方法(看護計画)				指定課題への取り組み(1時間)	
	8	認知症高齢者とその家族への支援				指定課題への取り組み(1時間)	
	9	強みを活かした看護の方法(看護計画)/紙上事例患者(認知症高齢者)の看護実践計画(演習準備)				指定課題への取り組み(1時間)	
	10	紙上事例患者(認知症高齢者)の看護実践(演習)				指定課題への取り組み(1時間)	
	11	紙上事例患者(認知症高齢者)の看護実践(演習)				指定課題への取り組み(1時間)	
	12	高齢者の生活を支える関連施設・事業の理解(調べ学習等)				指定課題への取り組み(1時間)	
	13	高齢者の生活を支える関連施設・事業の理解(調べ学習等)				指定課題への取り組み(1時間)	
	14	高齢者の生活を支える関連施設・事業について共有・発表会				指定課題への取り組み(1時間)	
	15	高齢者の生活を支える関連施設・事業について共有・発表会				指定課題への取り組み(1時間)	
評価方法	・60%以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				70%
	授業態度			◎	◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学概論						
科目名(英)	Overview of Pediatric Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小金丸 翔子		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	子どもと家族を取り巻く環境を多角的に捉えるために、看護の変遷や目的から人口統計的な知識、小児に関わる法律、小児看護が担う役割を学ぶ。また、子どもを権利を有する一人の人として尊重する心を養うと共に、子どもの成長発達を促すための基礎知識を身につける。(DP1・2・3)						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				子どもと家族をより広い視点からとらえて、小児看護の果たす役割を説明することができる。	
	○	○				小児看護の対象はすべての健康レベルの子どもであることを説明することができる。	
	○	○				小児の成長発達、小児各期の発達の特徴を説明することができる。	
	○	○				小児看護の基本となる考え方(変遷、倫理、小児に関する理論・法律など)を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	奈良間美保:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論』, 医学書院 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	小児看護の変遷と目的・役割			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	子どもの権利と看護			指定課題への取り組み		
	3	子どもと家族を取り巻く環境			指定課題への取り組み		
	4	小児看護で用いられる理論			指定課題への取り組み		
	5	小児の発達(発達論)			指定課題への取り組み		
	6	小児の発達(評価方法)			指定課題への取り組み		
	7	小児の成長発達: 新生児期			指定課題への取り組み		
	8	小児の成長発達: 乳児期			指定課題への取り組み		
	9	小児の成長発達: 幼児期			指定課題への取り組み		
	10	小児の成長発達: 学童期			指定課題への取り組み		
	11	小児の成長発達: 思春期			指定課題への取り組み		
	12	小児の成長発達のまとめ: 遊びの計画			指定課題への取り組み		
	13	子どもと家族を取り巻く社会①			指定課題への取り組み		
	14	子どもと家族を取り巻く社会②			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学概論							
科目名(英)	Overview of Maternal Nursing							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松藤 沙弥香			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務			
対象学科・学年	看護科・2年							
授業概要	母性看護学概論では、母性看護の変遷と動向・意義に加え、人間の性と生殖、母性看護の特性、女性のライフステージについて学ぶ。(DP1・2・3)							
授業形態	講義: ○	演習: :△	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				女性のライフサイクルから見た看護の対象を説明することができる。		
	○	○				リプロダクティブヘルスライツの考え方を説明することができる。		
	○	○				現代社会における問題を知り、母性看護の意義と役割を述べることができる。		
	○	○				ライフサイクル各期に起こりやすい生殖機能の障害を理解し、必要な看護を考えることができる。		
	○	○				母性特有の生命倫理の現状を知り、看護職者としての倫理観について考えることができる。		
テキスト・教材 参考図書	森 恵美:『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』, 医学書院 講師配布資料							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	母性看護学の基盤となる概念(母性とは・母子関係と家族発達)				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	母性看護学の基盤となる概念(セクシャリティ・リプロダクティブヘルスライツ)				指定課題への取り組み		
	3	母性看護学の基盤となる概念(母性看護の在り方)母性看護学の課題と展望				指定課題への取り組み		
	4	母性看護における倫理・母性看護における安全・事故予防				指定課題への取り組み		
	5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状				指定課題への取り組み		
	6	母性看護に関する組織と法律				指定課題への取り組み		
	7	母子保健に関する施策・母性看護を取り巻く環境				指定課題への取り組み		
	8	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化				指定課題への取り組み		
	9	女性の意思決定を支える技術・周産期の死に対する看護技術				指定課題への取り組み		
	10	女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア(性暴力・性感染症)				指定課題への取り組み		
	11	女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア(思春期)				指定課題への取り組み		
	12	女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア(生殖補助医療)				指定課題への取り組み		
	13	女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア(更年期)				指定課題への取り組み		
	14	女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア(老年期)				指定課題への取り組み		
	15	女性のライフステージ各期における看護・リプロダクティブヘルスケア(家族計画)				指定課題への取り組み		
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	筆記試験	◎	◎				80%	
	授業態度				◎		20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。							

科目名	精神看護学概論						
科目名(英)	Overview of Psychiatric and Mental Health Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	江崎 功		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	人間の心の仕組みや働き・発達から心の健康を考え、様々な場での精神保健の問題や活動を学ぶ。その上で精神科看護における患者-看護師関係や理論モデルについて学習することで、精神看護援助の基盤となる人間関係についての学びを深め、また精神保健医療福祉の歴史、現代の動向学び、今後の課題を考える機会とする。(DP1・2・3)						
授業形態	講義:	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神看護の概念と目的を理解し、精神科看護の役割や基本となる考え方を説明できる。	
	○	○				人間の精神の健康発達及び現代社会における精神保健の問題と看護の役割を説明できる。	
	○	○				精神疾患を持ちながら地域(様々な生活の場)で生活する患者環境を説明することができる。	
	○	○				精神保健医療福祉の変遷や現状について学び、求められる看護について説明することができる。	
○	○				患者-看護師関係や理論モデルについて学び、精神看護援助の基盤となる人間関係について説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	吉松 和哉ら:『精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版』, ヌーヴェルヒロカワ 川野 雅資:『精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版』, ヌーヴェルヒロカワ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神看護学とは 精神(心)の健康と不健康				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	主な精神の機能とその障害				指定課題への取り組み	
	3	危機状況と看護 ストレスとストレスコーピング				指定課題への取り組み	
	4	危機状況と看護 危機理論と危機介入 ライフサイクルと危機				指定課題への取り組み	
	5	精神保健と社会 家族・家庭と精神保健				指定課題への取り組み	
	6	精神保健と社会 学校と精神保健 職場と精神保健				指定課題への取り組み	
	7	精神保健と社会 地域精神保健活動に関わる資源(職種・機関)				指定課題への取り組み	
	8	自然災害に伴う被災地域の精神保健/災害と精神保健医療活動				指定課題への取り組み	
	9	リエゾン精神看護				指定課題への取り組み	
	10	精神医療の歴史・法制度				指定課題への取り組み	
	11	精神科看護の目的と対象/精神科看護師の役割				指定課題への取り組み	
	12	ストレングス、リカバリ、エンパワメント、レジリエンス				指定課題への取り組み	
	13	ペプロウ/オレム・アンダーウッド				指定課題への取り組み	
	14	プロセスレコード				指定課題への取り組み	
15	まとめ				指定課題への取り組み		
評価方法	講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学援助論						
科目名(英)	Overview of Assistance and Support Method for People Living with Mental Health Challenges						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	江崎 功		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	精神疾患を持つ対象者および家族に適切な看護援助を行うため、基礎的知識となる主な精神症状・行動障害、その看護について学ぶ。また地域の精神保健機関や各職種について学び、対象者が社会生活を継続するための環境について学ぶ。(DP1・2・3)						
授業形態	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神疾患を持つ対象者のセルフケア援助方法について説明することができる。	
	○	○				精神保健医療福祉における各職種について説明することができる。	
	○	○				病期別(急性期・回復期・慢性期)の精神疾患・障害の回復段階に応じた看護と多職種連携について述べることができる。	
○	○				主な精神症状・行動障害の看護について述べることができる。		
テキスト・教材 参考図書	吉松 和哉ら：『精神看護学 I 精神保健学 第6版』, ニューヴェルヒロカワ 川野 雅資：『精神看護学 II 精神臨床看護学 第6版』, ニューヴェルヒロカワ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	セルフケアの援助			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	精神看護における安全管理			指定課題への取り組み		
	3	精神保健医療福祉におけるチーム			指定課題への取り組み		
	4	作業療法士／精神保健福祉士／心理士／精神保健福祉相談員			指定課題への取り組み		
	5	入院から社会生活の継続までの看護 精神疾患・障害の回復段階に応じた看護と多職種連携(急性期)			指定課題への取り組み		
	6	入院から社会生活の継続までの看護 精神疾患・障害の回復段階に応じた看護と多職種連携(回復期)			指定課題への取り組み		
	7	入院から社会生活の継続までの看護 精神疾患・障害の回復段階に応じた看護と多職種連携(慢性期)			指定課題への取り組み		
	8	社会復帰支援・社会生活支援			指定課題への取り組み		
	9	幻覚・妄想の患者の看護			指定課題への取り組み		
	10	不眠状態・不安状態の患者の看護			指定課題への取り組み		
	11	意欲減退状態・抑うつ状態の患者の看護			指定課題への取り組み		
	12	躁状態・興奮・攻撃的の患者の看護			指定課題への取り組み		
	13	強迫行為・操作をするの患者の看護			指定課題への取り組み		
	14	摂食障害・依存状態・パニック患者の看護			指定課題への取り組み		
15	まとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
授業態度				◎		20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	臨床判断の基礎						
科目名(英)	Basics of Clinical Judgement Technique						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	柁澤 芳江		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	対象者に看護が届くその時に、看護師がどのようなことに気づき、解釈し、看護を実施し、それを改善し、以前よりさらに患者を深く理解した看護を行っているのかを学ぶ。看護師が知識や技術、経験をどのように構造化し看護実践につなげているのか、臨床判断の基礎となる思考・行動を身につける。(DP2・3・4・5)						
授業形態	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				臨床判断を身につけるための基礎知識を述べるができる。	
	○	○				事例において「気づき」を述べるができる。	
	○	○				リフレクションにより、患者の反応パターンや看護パターンを述べるができる。	
	○	○				既習知識を統合し看護実践に活用するプロセスを経験することができる。	
○	○				その人らしい生活や人生をサポートするためのナラティブな思考を身につけることができる。		
テキスト・教材 参考図書	テキストなし(各領域のテキストを使用) 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	臨床判断とは～看護師に臨床判断能力が求められる背景～			配布資料の事前通読		
	2	タナーの臨床判断モデル			配布資料の事前通読		
	3	思考発話とは			配布資料の事前通読		
	4	「気づく」			配布資料の事前通読		
	5	臨床判断モデルにおけるリフレクション			配布資料の事前通読		
	6	コンセプト学習～チャンク化とスキーマ帰納～			配布資料の事前通読		
	7	患者を深く知る事			配布資料の事前通読		
	8	臨床判断のトレーニング～周術期～			配布資料の事前通読		
	9	臨床判断のトレーニング～認知症～			配布資料の事前通読		
	10	臨床判断のトレーニング～小児～			配布資料の事前通読		
	11	臨床判断のトレーニング～母性～			配布資料の事前通読		
	12	臨床判断のトレーニング～精神～			配布資料の事前通読		
	13	臨床判断のトレーニング～健康維持・増進期～			配布資料の事前通読		
	14	臨床判断のトレーニング～症状別～			配布資料の事前通読		
15	臨床判断のまとめ			配布資料の事前通読			
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
	授業態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	家族看護論						
科目名(英)	Family Nursing						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	村方 多鶴子		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院等にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	家族看護における理論を活用した家族アセスメントと各領域における看護の実際に必要な基礎知識を身につける。(DP1・2・3・4・5)						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				家族看護の目的について説明できる。	
	○	○				家族とは何か、家族の定義や機能について説明できる。	
	○	○				家族看護における理論の活用について説明できる。	
	○	○				家族看護過程のプロセスを説明できる。	
	○	○				領域別事例において家族看護の実際を述べることができる。	
テキスト・教材 参考図書	○系統看護学講座 家族看護学 医学書院 『家族看護学 理論と実践』, 日本看護協会出版会 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	家族看護とは～家族看護の特徴と理念、実践の場面、家族とは～			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	家族看護の対象理解～家族の構造・機能(レジリエンス)～			指定課題への取り組み		
	3	家族看護の対象理解～現代の家族とその課題～			指定課題への取り組み		
	4	家族看護を支える理論と介入法			指定課題への取り組み		
	5	家族看護展開の方法～家族看護過程の実践			指定課題への取り組み		
	6	家族看護展開の方法～家族アセスメント			指定課題への取り組み		
	7	家族看護展開の方法～家族看護計画立案			指定課題への取り組み		
	8	家族看護展開の方法～家族看護実施			指定課題への取り組み		
	9	様々な家族看護アセスメントモデル			指定課題への取り組み		
	10	出産前後の家族への看護			指定課題への取り組み		
	11	医療的ケア児を持つ家族への看護			指定課題への取り組み		
	12	救急医療・集中治療の場における家族への看護			指定課題への取り組み		
	13	精神疾患をもつ患者の家族への看護			指定課題への取り組み		
	14	介護を行っている家族への看護			指定課題への取り組み		
15	家族看護のまとめ			指定課題への取り組み			
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				70%
	授業態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	薬物療法と看護					
科目名(英)	Pharmacotherapy and Nursing					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	江崎 功	
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科・2年					
授業概要	医療現場や在宅で行われる薬物療法に関する一般的な看護について学ぶ。また、薬物療法を受ける対象者の特徴を捉えた上で、多様な成長発達段階にある対象者各期への看護の視点を学ぶ。(DP3・4・5)					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				薬物療法に関する基本的な看護について理解し、説明することができる。
	○	○	○	○		成長発達段階各期の特徴を踏まえた、服薬自己管理に関する支援方法について説明できる。
	○	○	○	○		成長発達段階各期の特徴を踏まえた、服薬支援と与薬の方法について説明・実施できる。
	○	○	○	○		メディケーションエラー時への対応法について説明・実施できる。
○	○		○		薬物療法中の対象者への看護師の役割について、自己の考えを述べる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	吉岡 充弘ら:『系統別看護学講座 専門基礎分野Ⅲ 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学 第4版』, 医学書院					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	薬物療法の体内動態と相互作用、ハイリスク患者・薬物の剤型とその特徴に応じた看護			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	薬物療法に伴う心理・精神面への影響・服薬行動への支援			指定課題への取り組み	
	3	抗がん剤使用中の患者の看護・免疫抑制剤使用中の患者の看護			指定課題への取り組み	
	4	薬物療法による日常生活機能への影響・社会復帰に向けた自己管理・長期的薬物療法の継続にむけた支援			指定課題への取り組み	
	5	薬物療法を受ける成人期患者の看護			指定課題への取り組み	
	6	薬物療法を受ける在宅療養者の看護			指定課題への取り組み	
	7	身体的発達を踏まえた薬物動態や効果・副反応に対する看護・知的・精神的発達段階を踏まえた薬物療法における小児とその家族への支援			指定課題への取り組み	
	8	薬物療法を受ける小児への内服、吸入、座薬、点滴、服薬指導			指定課題への取り組み	
	9	薬物療法を受ける妊娠期・授乳期患者の看護			指定課題への取り組み	
	10	精神科領域の代表的な薬物療法を受ける患者の看護			指定課題への取り組み	
	11	薬物療法を受ける精神疾患患者の薬剤管理、服薬行動に向けた支援			指定課題への取り組み	
	12	薬物治療を受ける高齢者の看護			指定課題への取り組み	
	13	薬物療法を受ける高齢者の服薬行動に向けた支援、嚥下機能状態による服薬方法の検討と服薬支援			指定課題への取り組み	
	14	メディケーションエラーへの対応			指定課題への取り組み	
15	まとめ			指定課題への取り組み		
環境	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	筆記試験	◎	◎			
	授業態度	○	◎		◎	
評価割合						70%
						30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	健康支援の看護						
科目名(英)	Nursing for Health Support						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小金丸 翔子		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	自分自身の健康づくりとともに、家族や職場、地域での総合的な健康支援について学ぶ。(DP3・4)						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会の保健活動について説明できる。	
	○	○				保健指導の基礎理論について説明できる。	
	○	○				発達段階における保健指導の特徴を述べることができる。	
			○	○		保健指導の経験及びリフレクションができる。	
テキスト・教材 参考図書	神馬 征峰:『系統看護学講座<<系統看護学講座 専門基礎分野>>健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生』, 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会の変化と保健にかかわる意義				テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み	
	2	教育・指導とは何か				指定課題への取り組み	
	3	保健指導の基礎理論:自己効力理論				指定課題への取り組み	
	4	保健指導の基礎理論:変化のステージモデル				指定課題への取り組み	
	5	保健指導の基礎理論:ヘルスピリブモデル				指定課題への取り組み	
	6	保健指導の方法:集団指導と個別指導口				指定課題への取り組み	
	7	ライフステージ各期の健康課題と健康を守る法律・施策				指定課題への取り組み	
	8	企業の保健指導の実態見学				指定課題への取り組み	
	9	女性のライフステージ各期の健康課題				指定課題への取り組み	
	10	乳幼児の発達課題と健康課題と母子保健施策・学童期の保健課題と管理(学校保健)				指定課題への取り組み	
	11	成人期の発達課題と健康課題・働く人の健康課題と管理(産業保健)口				指定課題への取り組み	
	12	高齢者の発達課題と健康課題・高齢者の健康と生活を守る施策口				指定課題への取り組み	
	13	感染症予防と施策・障がい者・難病保健と施策口				指定課題への取り組み	
	14	保健指導のシナリオ作成				指定課題への取り組み	
15	保健指導の実施・リフレクション				指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	周術期の看護						
科目名(英)	Perioperative Nursing						
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	木本 佳菜美		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	周術期にある対象の特性を理解し、回復過程が円滑に進むための看護の役割および援助を学習する。また、急性期にある対象および家族への看護の基礎となる主要概念や理論を学習する。(DP2・3)						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生命危機状態にある対象の看護を理解するために、基礎となる主要概念や理論を踏まえ、身体的特徴や治療の概要、回復過程の看護が説明できる。	
	○	○				周術期にある対象の身体的特徴を述べることができる。	
	○	○				手術療法と起こりうる合併症およびその予防と対処方法を説明できる。	
	○	○				回復過程にある対象の生活の援助を説明できる。	
	○	○				対象および家族の精神的苦痛に対する援助方法についての関心を高めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中島 恵美子編:『ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護』, 株式会社メディカ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	周術期に関連する基礎知			テキスト、資料の事前通読及び指定課題への取り組み		
	2	外科的侵襲から回復期の生体反応			指定課題への取り組み		
	3	術前の看護(外来看護も含む)			指定課題への取り組み		
	4	術中の看護			指定課題への取り組み		
	5	術後合併症予防と発症時の援助			指定課題への取り組み		
	6	術後の継続看護			指定課題への取り組み		
	7	日帰り手術時の看護			指定課題への取り組み		
	8	成人期の特徴			指定課題への取り組み		
	9	老年期の特徴			指定課題への取り組み		
	10	小児の特徴			指定課題への取り組み		
	11	母性の特徴			指定課題への取り組み		
	12	術前の看護:外来見学			指定課題への取り組み		
	13	プレパレーション			指定課題への取り組み		
	14	プレパレーション実施			指定課題への取り組み		
	15	まとめ			指定課題への取り組み		
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	エンドオブライフケア									
科目名(英)	Terminal Care									
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒					
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務					
対象学科・学年	看護科・2年									
授業概要	現代社会では、病むことや死と向き合うことを余儀なくされることに苦悩し、これからの人生をどう生きるかについて思い悩む人に寄り添い、歩いていくことができる看護師が求められている。当科目では病気の種類、病期、年齢、療養場所を問わない横断的な終末期看護を学ぶとともに、死生観や倫理的思考を養う。(DP1・2・3・4・5・6)									
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				終末期、エンドオブライフケアの基礎知識を説明できる。				
	○	○				人生の最終段階における対象者の権利と意思決定支援について説明できる。				
	○	○				各発達段階におけるエンドオブライフケアの特徴を述べることができる。				
	○	○		○		緩和ケアの目的や疼痛コントロールについて説明できる。				
	○	○		○		各発達段階におけるエンドオブライフケアの特徴を述べることができる。				
○	○		○		看取りの看護について述べるができる。					
テキスト・教材 参考図書	テキストなし(各専門領域で使用している教材を使用) 講師配布資料									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	終末期とは(言葉の意味:終末期、ターミナル期、ホスピスケア、緩和ケア)				配布資料の事前通読				
	2	エンドオブライフケアとは(意味、構成要素)				配布資料の事前通読				
	3	人生の最終段階における意思決定(ガイドライン、人生会議)				配布資料の事前通読				
	4	人生の最終段階における意思決定(アドバンスディレクティブ、リビングウィル、アドバンスケアプランニング、DNRなど)				配布資料の事前通読				
	5	人生の最終段階にある対象者の理解(老年期における特徴)				配布資料の事前通読				
	6	人生の最終段階にある対象者の理解(成人期における特徴)				配布資料の事前通読				
	7	人生の最終段階にある対象者の理解(小児期における特徴)				配布資料の事前通読				
	8	トータルペインとは(身体的・精神的・社会的苦痛、スピリチュアルペイン、村田理論、アセスメントなど)				配布資料の事前通読				
	9	疼痛アセスメント(疼痛の評価、疼痛の要因)				配布資料の事前通読				
	10	緩和ケア(緩和ケアの目的、疼痛コントロールとケア)				配布資料の事前通読				
	11	死の受容(死のとらえ方)				配布資料の事前通読				
	12	臨終時の看護(身体変化、臨死期の対応、家族の心理)				配布資料の事前通読				
	13	看取りの看護(家族ケア、グリーフケア、在宅における看取り)				配布資料の事前通読				
	14	看取りの看護(在宅における看取り)				配布資料の事前通読				
15	死亡時の看護(死後の処置、エンゼルケア・メイク、デスカンファレンス)				配布資料の事前通読					
評価方法	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	筆記試験	◎	◎				80%			
	授業態度				◎		20%			
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。									

科目名	地域・在宅看護論実習						
科目名(英)	Practice in Nursing for Community/Home Health Care						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	地域で暮らす人々とその家族を理解し、その人らしい生活を地域で継続していくための支援の実際を学ぶ。 (DP1・2・3・4・5・6) 90時間:訪問看護ステーションでの実習(訪問診療の実習を含む)						
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域で暮らす人々とその家族の健康や生活の課題を理解することができる。	
	○	○				地域でその人らしい生活を継続していくための支援・資源・連携について理解できる。	
	○	○	○			地域でその人らしい生活を継続していくための強みを活かした看護を理解できる。	
	○	○				地域でその人らしい生活の継続を支える看護の役割と機能を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I ・ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① ・地域・在宅看護論の講義資料、その他 配布資料 						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	地域で暮らす人々とその家族の総合的理解			実習要項の事前通読及び、指定課題への取り組み		
		地域で暮らす人々とその家族の健康や生活の課題			指定課題への取り組み		
		地域で暮らす対象にとって、その人らしい生活とは何か			指定課題への取り組み		
		地域でその人らしい生活の継続を支える社会資源			指定課題への取り組み		
		地域でその人らしい生活の継続を支える多職種連携			指定課題への取り組み		
		地域で暮らす対象にとって、強みは何か			指定課題への取り組み		
		地域でその人らしい生活の継続を支える看護			指定課題への取り組み		
		地域・在宅における看護師の役割と機能			指定課題への取り組み		
		学びのまとめ			指定課題への取り組み		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者:指導教員と臨床指導者。 ・評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%)、100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学実習						
科目名(英)	Practice in Adult Nursing						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 松ノ木幸恵		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	成人・老年期にある健康危機状況の人とその家族を理解し、危機を乗り越え生きていくことを支えるための看護の実際を学ぶ。(DP1・2・3・4・5・6) 救命救急センターにて8時間、救急病床にて24時間実習後、急性期病棟にて58時間実習						
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				健康危機状況にある人とその家族を理解することができる	
	○	○	○	○		健康危機状況にある人とその家族への、危機を乗り越え生きていくことを支える看護を理解できる。	
	○	○				健康危機状況にある人とその家族への、危機を乗り越え生きていくことを支えるための多職種連携を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	変化の著しい状態にある人の身体的状態と治療による影響を捉え、必要な看護を理解する			実習要項の事前通読及び、指定課題への取り組み		
		変化の著しい状態にある人とその家族の心理的・社会的特徴を捉え、必要な看護を理解する			指定課題への取り組み		
		変化の著しい状態にある人を取り巻く生活環境とその影響について理解する			指定課題への取り組み		
		変化の著しい状態にある人とその家族に必要な看護を実施する			指定課題への取り組み		
		変化の著しい状態にある人とその家族を支える多職種連携の必要性を理解する			指定課題への取り組み		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者: 指導教員と臨床指導者。 ・評価基準: 5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%)、100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人・老年看護学実習 I						
科目名(英)	Practice in Adult and Gerontological Nursing I						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 河村佳緒理		
実施年度	2023年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・2年						
授業概要	成人・老年期にある生活機能の維持・回復をめざす人とその家族を理解し、健康課題に取り組み自律して生活していくことを支えるための看護の実際を学ぶ。(DP1・2・3・4・5・6) 病院実習74時間、他病院地域包括ケア病棟16時間。						
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活機能の維持・回復をめざす人とその家族を理解することができる。	
	○	○	○	○		生活機能の維持回復をめざす人とその家族への、健康課題に取り組み自律して生活していくことを支える看護を理解できる。	
	○	○				生活機能の維持回復をめざす人とその家族への、健康課題に取り組み自律して生活していくことを支えるための多職種連携を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	生活機能の維持回復をめざす人の身体的状態とセルフケア能力を捉え、必要な看護を理解する				実習要項の事前通読及び、指定課題への取り組み	
		生活機能の維持・回復をめざす人とその家族の心理的・社会的特徴を捉え、必要な看護を理解する				指定課題への取り組み	
		生活機能の維持回復をめざす人を取り巻く生活環境とその影響について理解する				指定課題への取り組み	
		生活機能の維持回復をめざす人とその家族に必要な看護を実施する				指定課題への取り組み	
		生活機能の維持回復をめざす人とその家族を支える多職種連携の必要性を理解する				指定課題への取り組み	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者:指導教員と臨床指導者。 ・評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%)、100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						